

緩和医療学科

氏名	所属	職名	取得学位	専門分野	主な論文・著作・業績
木村 祐輔	緩和医療学科	特任教授	博士（医学）	緩和ケア、 外科学、消 化器外科学	<p>①Kimura Y, Yaegashi Y, Sato N. Tumor necrosis factor-α production after esophageal cancer surgery: differences in the response to lipopolysaccharide stimulation among whole blood, pleural effusion cells, and bronchoalveolar lavage fluid cells. Surg Today. 1999;29(1):10-5.</p> <p>②Kimura Y, Akira S, et al. Thoracoscopic Enucleation of Esophageal Benign Tumors. Minimally Invasive Foregut Surgery for Malignancy. p177-181.</p> <p>③木村祐輔他、岩手医科大学附属病院「がん患者・家族サロン」日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団編、ホスピス緩和ケア白書2016, p30-32. 青海社, 2016. 4.</p> <p>④木村祐輔. 緩和ケア その歴史と新しい考え方. 岩手医学雑誌. 68 : 247-255, 2017.</p> <p>⑤木村祐輔. 苦い経験から学ぶ緩和医療ピットフォールファイル. p143-146. 森田達也、濱口恵子編. 南江堂. 2017年.</p> <p>⑥木村祐輔. 症状を緩和する「肝性脳症」. 症例を時間で切って深く知る！がん緩和医療. p203-208. 有賀悦子編. 日本医事新報社. 2017年</p> <p>⑦文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (研究代表者:木村祐輔), 2010-2012年度「核内γH2AX発現に基づく食道癌化学放射線療法の新たな感受性予測」</p> <p>⑧文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C) (研究代表者:木村祐輔), 2018-2021年度「がん終末期における地域医療連携の質を評価するための新指標開発に関する研究」</p>
青木 優子	緩和医療学科	助教		麻酔全般、 ペインクリ ニック	<p>①大淵優子、白塚秀之、福岡 直、小柳 覚、田邊 毅. 横隔膜部分切除術施行中の経皮的酸素飽和度低下時にHFJVが有用であった1症例. 日本臨床麻酔学会誌23(8)pS300. 2003年.</p> <p>②大淵優子、日高康治、柳川慎平、門田和気、土田英昭、川上重彦. 口蓋裂手術患児に認めた口腔内食物残渣. 麻酔 52(1) p76-77. 2003年</p> <p>③大淵優子、小柳 覚、白塚秀之. 小開胸肺部分切除術術後にARDSを発症した1症例. 麻酔 53(9)p1084. 2004年</p> <p>④青木優子、大畑光彦、鈴木 翼、星有己枝、田村雄一郎、宮田美智子、水間謙三、鈴木健二. 腰部硬膜外ブロック後に気脳症をきたした1症例. 第38回東北ペインクリニック学会. 2014年.</p> <p>⑤木村祐輔、青木優子. 【外科医が知っておきたい緩和ケア】 緩和ケアチーム. 消化器外科. 38(13)p1777 ~ 1783, 2015年</p> <p>⑥青木優子、鈴木翼、山田直人、宮田美智子、星有己枝、水間謙三、大畑光彦、鈴木健二. 断続的電流治療器 (NORMALIZA) ががん性疼痛に有効であった2症例. 第40回東北ペインクリニック学会. 2016年</p> <p>⑦青木優子. 痛み症状への漢方活用例. 女性医師のための漢方セミナー. 2016年</p> <p>⑧青木優子. 初心者のための漢方入門. 第37回水沢漢方懇話会. 2016年</p> <p>⑨青木優子. 漢方医学教育の実際と展望. 第22回日本東洋医学会岩手県部会学術集会. 2017年</p> <p>⑩青木優子、佐藤由紀、萬徳孝子、三浦一穂、木村祐輔. 放射線食道炎に対する桔梗湯の使用経験. 第22回日本緩和医療学会学術大会. 2017年</p>